

しれいせつぞ

この点、他企業にみられる資料センターのような中心組織を置いて、資料の集中管理分散保管方式をいっそう強力に押し進めるべきであろう。

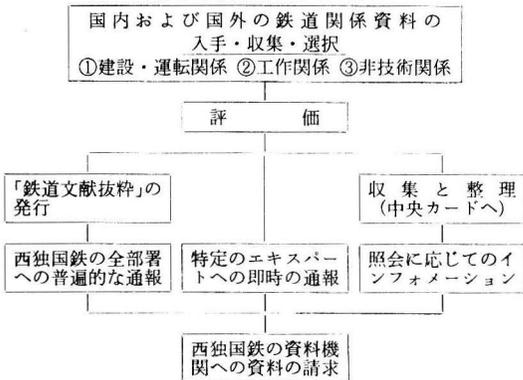
この意味では、西独国鉄資料部のあり方は、わが国鉄でも大いに参考となるものである。

西独国鉄では、1956年に資料部が中央組織として厚生事務局内に設立され、じらい、ここで西独国鉄の全分野をもうらす資料関係業務を担当している。この資料部には、鉄道関係の資料はもちろん、鉄道にとって重要な他の交通関係の資料も、諸外国鉄道の資料センターとの緊密な提携のもとに収集されている。このほか、ドイツ国内の資料機関との間に資料目録の交換が活発に行なわれており、これによって資料部の資料カードは、たえず補完されている。

資料業務とインフォメーション業務を遂行するために、資料部には、鉄道および交通関係の資料を収集し、評価し、整理する職員12名が配置されている。このほか、西独国鉄部内には、外局的に評価作業に参加する25名の上級職の職員が、資料業務に常置されている。

資料部の担当する業務は、図表のとおりである。

西独国鉄資料部の管掌業務図



さて、国鉄の本社では、資料管理の1科目に収まるファイリングシステム、マイクロフィルミングについては、総裁室文書課が担当し、文書管理の一環として仕事を進めつつあるが、いまだ立案文書または帳票類中心であるので、資料としては、もうら性に乏しいきらいがある。立案文書または帳票類以外にも重要な資料がたくさんあるので、文書管理から取り残されたこれらの資料の適切な管理が望まれる。

また、営業局開発部においては、輸送市場の的確なはあくのため、輸送需要に関する資料の収集とその調査分析を行なっている。

一方、資料の中で最も重要性を有する統計資料の国鉄部内における生産、伝達は、事務管理統計部が担当しているが、古い統計資料の保管は、数箇所で分散貯蔵されている。

このほか本社の各部局や、地方機関でも、それぞれ部門ごとに、程度の差はあれ、それなりの規模で資料管理は行なわれているが、相互の連絡はよく行なわれていないうらみがある。この点、国鉄部内でも、鉄道技術研究所の技術情報部は、技術資料の速報性、もうら性を重視して作業を進めており、技術研究部門に限定されてはいるが、資料管理活動を全社的に進めている機関といえる。

国鉄においては、昭和38・2に、本社に鉄道図書室附属の資料室が設置され、じらい着々資料の整備充実に当たっているが、これがいまだ国鉄本社または国鉄全体の資料センターといった

中心組織となっておらず、そのためか他企業のそれに比べて不備点が多く、今後の改善にまっところが多い。そのためには、資料活動のうえて脱落、重複、ムダを排除し、調査、企画などを合理化、能率化するために、資料の集中管理分散保管方式を強力に推進し、国鉄全体としての資料管理体制を確立する必要があると思われる。

参考文献 有田恭助著 情報の集め方。情報管理便覧編集委員会編 情報管理便覧。情報管理研究会編 実務家のための情報管理。専門図書館協議会編 資料管理ガイドブック。須永一郎著 経営資料の生かし方。多田和夫編 企業と情報。

(岡田汁一)

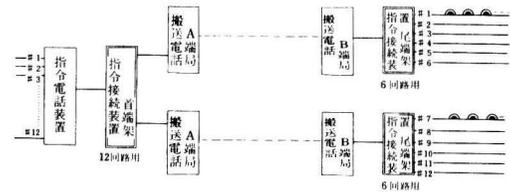
しれいせつぞくそうち 指令接続装置 指令電話装置と搬送電話装置との接続に用いられるもので、正規には指令搬送接続装置といわれる。

国鉄で使用される指令電話装置は、ウェスタン方式を採用しているため、親装置より子電話機を呼び出す場合は、直流150~200Vのインパルスを送出する。この伝送回線は、直流インパルスの通るメタリック回線を使用せねばならない。

実回線で構成できない箇所や、通話損失の多い区間は搬送回線を用いねばならないが、この場合、この指令接続装置を用いる。

この装置の構成は図に示すとおりで、指令者側に設置される装置を指令接続装置の首端架(略して指令首端架)といい、子電話機側に設置される装置を指令接続装置の尾端架(指令尾端架)という。これらの装置は、それぞれダイヤル信号方式の可能な搬送電話機に接続され、指令搬送電話回線を構成する。

指令搬送接続装置



1 動作概要

(1) 指令者より子電話機への呼出方式

指令台の選出電けん(鍵)の操作により、直流インパルスは、指令首端架に延長され、この装置のインパルス中継用継電器を動作させ、その接点の開閉により搬送電話機の信号送信回路を制御して、3,850c/s符号信号を送出する。指令尾端架においては、搬送電話の電信継電器接点により尾端架の信号回路が動作し、子電話機側線路に対して、直流電源(標準としては、直流150V)を延長するとともに符号に応じて極性を交互に転換し、(+)(-)の衝動電流を送信して、子電話機を呼び出す。

(2) 子電話機より指令者への呼出方式

呼出し時に子電話機より送出される16c/s信号電流は、尾端架の信号回路により整流された後、RU継電器を動作させ、その接点を通じて、搬送電話機の信号送出回路を、動作させ、3,850c/s信号電流を、指令首端架側に送出する。指令首端架側では、搬送電話機信号受信回路の継電器接点を通して、首端架より16c/s信号電流を指令台側に送出し呼出しが行なえる。

2 装置の構成および電源

装置の構成は通常、首端架は1架に12回線まで実装でき、尾端架は1架に6回線まで実装できるようになっている。

首端架と尾端架の実装容量の異なっているのは、首端架は指